令和７年度　研究サマリー

研究会名称	腎代替療法研究会	
代表者所属	東京慈恵会医科大学　腎臓・高血圧内科	
代表者氏名	中山　昌明	印

研究方法・結果

末期腎不全に対する最初の腎代替療法として血液透析（Hemodialysis：HD）でなく腹膜透析（Peritoneal dialysis：PD）を選択する、いわゆるPDファーストは残存腎機能が保たれる、不均衡症状が少ない、在宅医療であり社会復帰が容易であるなどの利点から推奨されている。しかし、経年的に腹膜機能劣化や残存腎機能低下が認められ、PD単独治療は困難になる。このような症例に対し、直接HDに移行するのではなく、通常、週5日～6日のPDに週1回のHDを併用するPD＋HD併用療法は、我が国特有の治療法である。しかし、PD+HD併用療法の明確な導入基準、中止基準、そして他の透析方法に対する優位性（非劣性）は明らかになっておらず、腎代替療法研究会（EARTH（Evaluation on the Adequacy of Renal Replacement Therapy研究会）はPD+HD併用療法の科学的妥当性を解明する目的で設立され、PD単独から、PD+HD併用療法に移行することによって、溶質除去不全（透析不足）と体液貯留傾向（溢水）は改善、さらに、貧血と腹膜機能も改善傾向を示すことを報告してきた。

一方、被嚢性腹膜硬化症（encapsulating peritoneal sclerosis：EPS）は、PDにおける最も重篤な合併症であったが、PD液の中性化により、その発症率や重症度は改善してきていると言われている。しかし、我々は、日本透析医学会の統計調査データベースを用いた検討で、依然としてわが国には700名強のEPS患者さんが存在しており、引き続き、注意を要する合併症であることをClin Exp Nephrol誌で報告した。

研究成果（論文、学会発表、雑誌掲載等）

Maruyama Y, Matsuo N, Tanno Y, Ikeda M, Yokoyama K, Nakayama M, Yokoo T. The epidemiology of encapsulating peritoneal sclerosis in an era of biocompatible neutral peritoneal dialysis solution in Japan. Clin Exp Nephrol. 2025;29(11):1666-9

第55回日本腎臓学会東部学術大会　（令和7年9月27日～28日）

シンポジウム８「ここまで進んだESKD患者の合併症対策」腹膜透析の合併症対策（特に長期腹膜透析）丸山之雄

第31回日本腹膜透析医学会学術集会・総会　（令和7年11月22日～23日）

【第一期JSPDプロジェクト委員会・成果報告会】　～併用療法～　丸山之雄

シンポジウム２　腹膜透析関連合併症：克服に向けて　被嚢性腹膜硬化症：現状と今後の対策　丸山之雄

第5回 日本腎不全合併症医学会学術集会・総会　（令和8年2月21日～22日）

中性透析液時代における被嚢性腹膜硬化症の生命予後に関する研究　丸山之雄

ISN World Congress of Nephrology 2026　（令和8年3月28日～31日）

RECENT EPIDEMIOLOGY AND CLINICAL OUTCOMES OF ENCAPSULATING PERITONEAL SCLEROSIS IN JAPAN.

Maruyama Y, Matsuo N, Tanno Y, Ikeda M, Yokoyama K, Nakayama M, Abe M, Masaki T, Yokoo T